

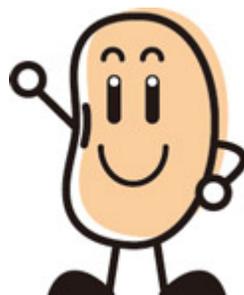
本別町はどんなところ？

本別町は、北海道十勝平野の北東部に位置しており、総面積は391.9km²です。東部と南部は丘陵地帯、西部と北部は段丘地帯となっており、町内を縦断する利別川と美里別川に沿って平地が形成されています。

気候は、内陸性特有の気候で、夏期は比較的高温になる一方、冬期は大陸性寒冷高気圧により低温、乾燥した日が続き、一年の寒暖差が大きいです。加えて、冬のひと月の降雪の深さは約60cmと、道内では比較的降雪が少ないのも特徴です。



キレイマメ



本別町イメージキャラクター「元気くん」

本別町の主な基幹産業は農業であり、産業別付加価値額も農業が最も多く、本別町の経済全体に大きな影響を及ぼしているといえます。また、本町は全国的に豆の生産地として有名であり、中でも本別町発祥の黒豆「中生光黒大豆」は、加工したものが「キレイマメ」としてブランド化されています。

本別町の計画

本別町の人口は現在6,057人（令和6年9月現在）であり、ピーク時より年々減少が続いています。人口減少に伴い、本町では、地域経済の縮小、労働力不足、空き家・空き店舗問題、交通空白地、中心市街地の衰退などの様々な地域課題が起こっています。

これらの地域課題に対応するため、本別町では「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、課題解決に向けた施策を行ってきました。そして、令和6年3月に、「第2期本別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂した「本別町デジタル田園都市構想総合戦略」を策定しました。

本別町デジタル田園都市構想総合戦略

上位計画である第7次総合計画における本別町の将来像を実現するために、デジタルの力を活用しつつ、地域の個性を活かしながら地方の社会課題解決や魅力向上の取組を加速化・深化させるための計画。

本別町の将来像（第7次本別町総合計画より）

『心を合わせて みんなの笑顔を 未来につなぐ』

基本目標

- 基本目標 1 元気な産業をつくり安心して働けるようにする
- 基本目標 2 本別への新しい人の流れをつくる
- 基本目標 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 基本目標 4 安心して暮らせる地域をつくる

(<https://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/web/administration/details/jinkouvijon.html>)

官民で取組を行うために

本別町の地域課題を解決し、将来像『心を合わせて みんなの笑顔を 未来につなぐ』を目指すための手法として、本別町ではSDGsを推進してきました。地域課題の解決には行政単独での対応は難しいため、令和5年度2月に地域課題解決の取組を官民で行うための体制作りに向けて、「本別町SDGs・脱炭素推進協議会設立準備委員会」を開催しました。

その後、令和6年度6月に、多様なステークホルダーにより構成された「本別町SDGs・脱炭素推進協議会」（以下、協議会）を設立し、本別町SDGsの達成に向けた取組について協議・検討を行っています。

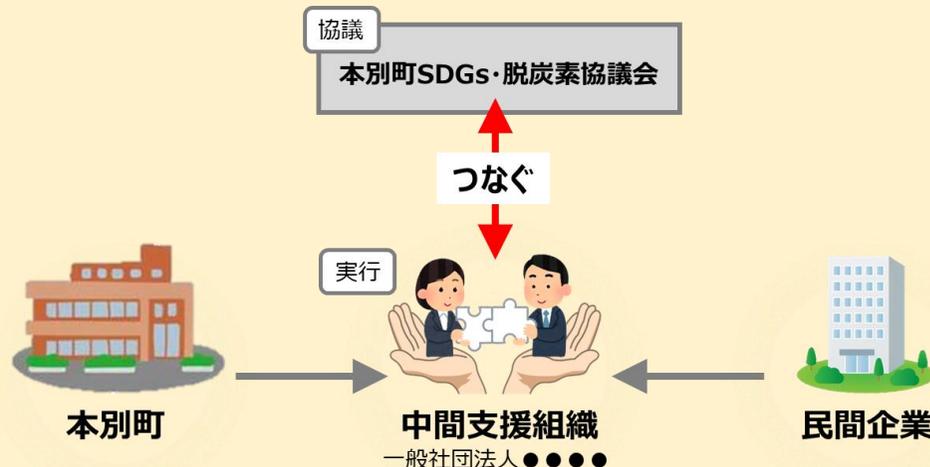


協議会の様子

また、協議会で協議・検討された取組を実行するための組織として、「**（一社）中間支援組織**」を設置しました。

中間支援組織…行政と地域の間にとって様々な活動を支援する組織のこと

町と民間企業が連携、協働を推進する上で、行政と企業、企業と企業、また市民と行政、などの間に立ち、パイプ役として中立的な立場で、それぞれの活動を支援する組織です。この中間支援組織は、『本別町SDGs・脱炭素協議会』での協議内容を実行に移す、その“実行部隊”として設置されました。組織が持つ、ノウハウやネットワーク、情報などを活用した中間支援業務を行う組織として、その役割を担います。



（機能・役割） 協働の推進・中立的な立場でのコーディネート・組織基盤の強化・人材育成・相談 等

本別町のあるべき姿

本別町は2024年6月に内閣府「SDGs未来都市」へ選定されています。

本別町SDGs未来都市計画

『ゼロから始める本別町 官民協働ローカルSDGs』

SDGs未来都市計画の中では、本別町の2030年におけるあるべき姿を表した将来ビジョン図を掲げています。このあるべき姿の図は、協議会において共有され、図中の項目のうち重点的に推進していく項目について協議・検討を行い、4つの項目（図の丸をつけた箇所）について優先して推進していくことになりました。



本別町SDGs未来都市計画「2030年本別町のあるべき姿」イメージ図

令和7年度以降の優先推進事業

ここからは、「SDGs未来都市計画」を具体的に進めていくために、令和7年度より優先的に推進していく4つの事業について、それぞれ概説していきます。

① HONBETSU SDGs BRAND 「本別町 SDGs ブランディング」



SDGs ブランド構築のおおまかな流れ

- PRODUCT 商品を開発する
または
既存商品を見直す
- CONCEPT コンセプトを
考える・決める
- DESIGN 様々なデザインを
作成する
- PROMOTION プロモーション
を戦略的に展開する

② HONBETSU ZERO CARBON CAMPSITE ゼロカーボンキャンプ場



ゼロカーボンキャンプ場構築のおおまかな流れ

- RESEARCH 再エネポテンシャル
を調査
- DESIGN キャンプ場の
設計
- CONSTRUCTION 再エネ機器
の設置
- OPEN キャンプ場の
オープン

③ 中心市街地の機能向上と活性化



中心市街地再構築のおおまかな流れ

- MARKETING アンケートによる
町民のニーズ調査
- PILOT PROJECT パイロット店舗で
トライアル調査
- DESIGN トライアル実績を
元に実店舗化
- PROMOTION 商店街活性化に向けて
運営していく

④ 域外との新たなマッチングを生むサテライトオフィスの設置



サテライトオフィス運営までのおおまかな流れ

- SYSTEM マッチングを生む
システムの設計
- DESIGN オフィスの設計
- PROMOTION 域内外に向けた
プロモーションの展開
- OPERATION サテライトオフィスの
運営

優先推進事業①：本別町ブランド認証制度

【SDGs事業としての目的】

本別町の町や産品や自然に価値を生み出して地域内に還元される利益を増やし、域内好循環を実現させます。



SDGs ブランド構築のおおまかな流れ



PRODUCT

商品を開発する
または
既存商品を見直す



CONCEPT

コンセプトを
考える・決める



DESIGN

様々なデザインを
作成する



PROMOTION

プロモーション
を戦略的に展開する

優先推進事業①：本別町ブランド認証制度

「本別町 SDGs ブランディング」

<本別町 SDGs ブランドの運用システム>

地域商品を SDGs ブランドとしてリブランディング



通常料金に社会課題解決協力を上乗せした価格で販売する

(例)「この商品は、社会課題解決協力金として通常料金に一律50円を追加販売しております。」



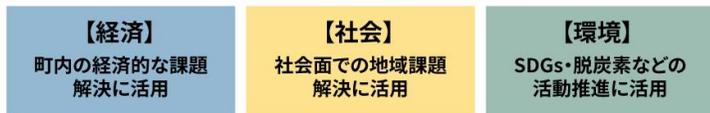
選んでもらう

選んでもらう

それぞれの「あるべき姿」に共感してもらい、
応援したい目標の商品を購入してもらう



基金を通じ、地域の社会課題解決のための
プロジェクトに活用される



例：イベントの開催



例：バスの運行を増やす



例：環境保全活動費

本別町SDGsブランドとは…

町内で製造されている既存商品、または新規商品に「SDGsブランド」として付加価値を持たせることで、地域課題解決のための資金を獲得し、地域課題解決に役立てます。



本別町が解決を目指す課題を「経済」「社会」「環境」などのカテゴリーごとに分類し、商品にデザインとして落とし込みます。

例) ・路線バスの運行ダイヤを増やす。
・本別公園の設備管理の資金を作る。など



購入者はそれらのパッケージやメッセージに共感し、通常より高く売られている商品を購入することで、間接的に本別町の課題解決への協力をします。



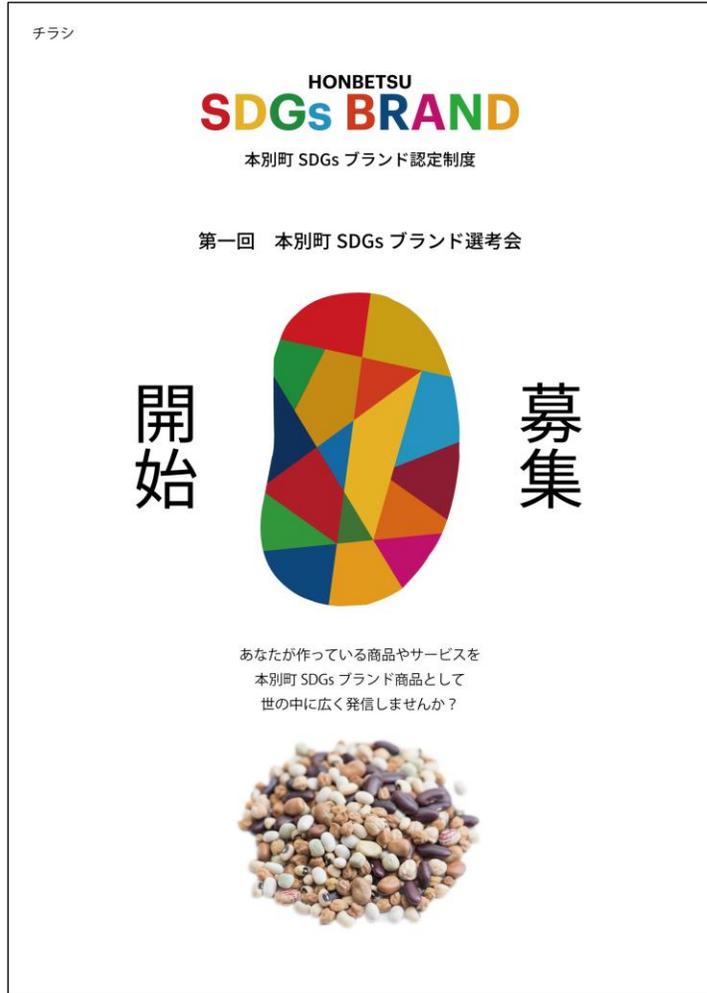
結果として得られた差額分の利益を基金として集めます。集まったお金を地域課題解決のための資金とし、課題解決を推進する各種団体や企業に援助します。



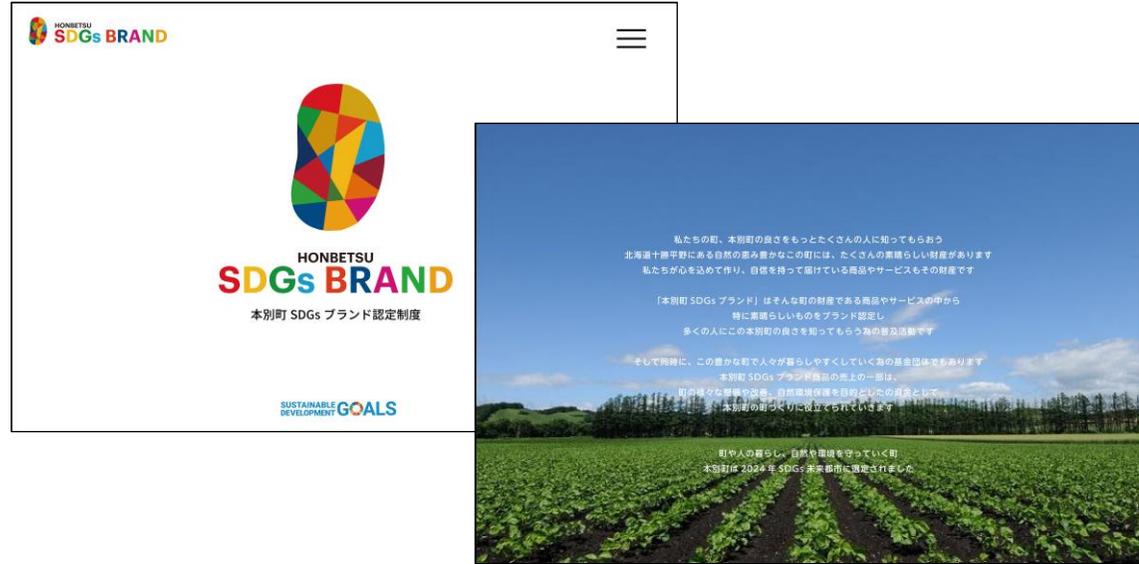
本別町の自然が保護され、社会に必要な機能を維持したりできるようになることで、本別町を持続可能な住み良い町にしていきましょう。

優先推進事業①：本別町ブランド認証制度

＜本別町SDGsブランド ビジュアルデザイン例＞



公募チラシイメージ



ブランドHPイメージ

優先推進事業②：本別公園のリブランディング

【SDGs事業としての目的】

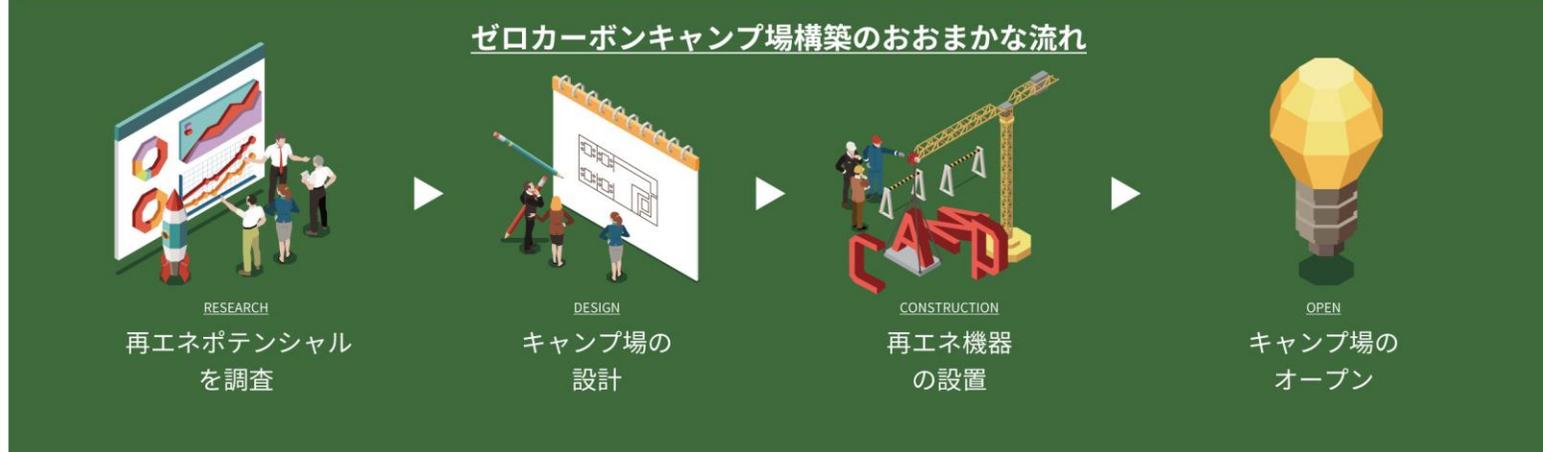
- ・本別町の環境配慮を体現する活動の一つとして推進を行います。
- ・観光コンテンツの創出により、新たな関係人口の獲得を図ります。



ゼロカーボンキャンプ場

HONBETSU
ZERO CARBON
CAMPSITE

ゼロカーボンキャンプ場構築のおおまかな流れ



```
graph LR; A[RESEARCH] --> B[DESIGN]; B --> C[CONSTRUCTION]; C --> D[OPEN];
```

RESEARCH
再エネポテンシャル
を調査

DESIGN
キャンプ場の
設計

CONSTRUCTION
再エネ機器
の設置

OPEN
キャンプ場の
オープン

優先推進事業③：中心市街地のリブランディング

【SDGs事業としての目的】

本別町の機能を向上させ、町が賑わいを創出することで商店が自律的に継続して営んでいける市街地エリアの実現を目指します。



市街地の機能向上と活性化

中心市街地再構築のおおまかな流れ



MARKETING

アンケートによる
町民のニーズ調査



PILOT PROJECT

パイロット店舗で
トライアル調査



DESIGN

トライアル実績を
元に実店舗化



PROMOTION

商店街活性化に向けて
運営をしていく

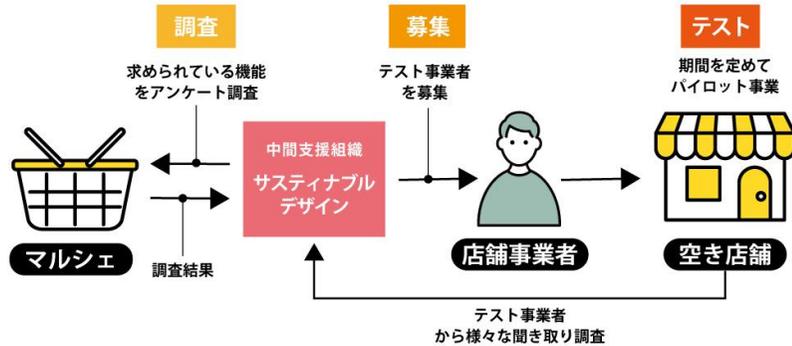
優先推進事業③：中心市街地のリブランディング

市街地の機能向上と活性化

<市街地に店舗を増やす取組>

2024年度 マルシェを利用した商店街のマーケット調査

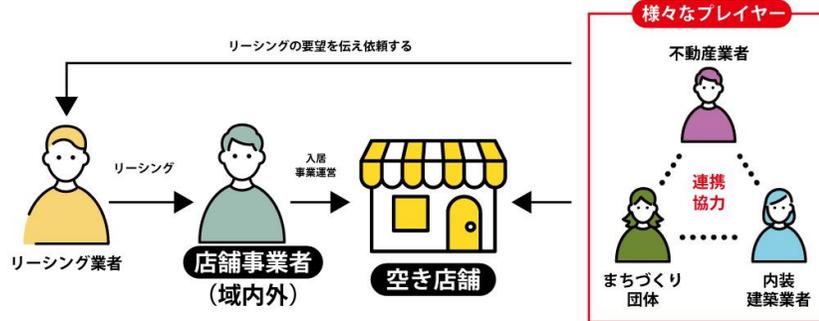
空き店舗活用によるパイロット事業の実施



本別町中心市街地の活性化を目的として、中心市街地の空き店舗を活用し、新たな店舗や町の機能の充実化を図っていきます。

空き店舗をうまく活用し、商店街の店舗入居率を上げていくことで中心市街地に機能が補完され、町民の市街地利用が増加し、街を活性化させます。

様々なプレイヤーが参加できるようになる



住民が求める機能を持った
中心市街地を作っていく

その結果として、域内での購買行動が促進され、本別町からの流出を防ぎ、経済が域内循環されていくことで、地域がより豊かになります。

優先推進事業④：サテライトオフィスの設置

【SDGs事業としての目的】

- ・本別町に関わる人材を増やすことで地域を活性化させます。
- ・地域にこれまで無かったリソースによって新たな産業を創出します。

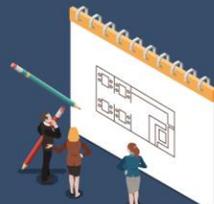


サテライトオフィス運営までのおおまかな流れ



SYSTEM

マッチングを生む
システムの設計



DESIGN

オフィスの設計



PROMOTION

域内外に向けた
プロモーションの展開



OPERATION

サテライトオフィス
の運営

優先推進事業④：サテライトオフィスの設置

域外との新たなマッチングを生むサテライトオフィスの設置

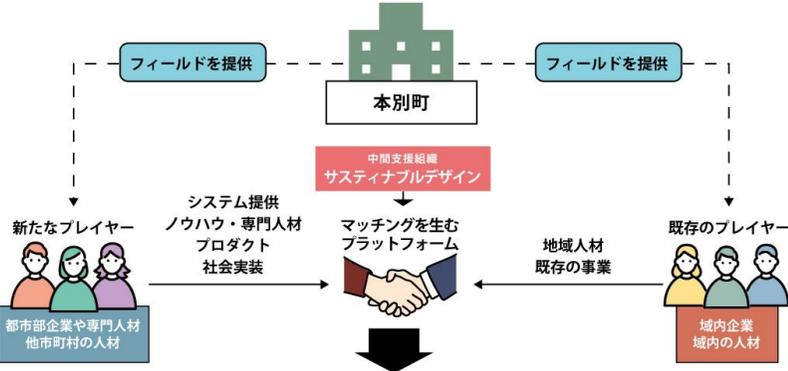
<域外事業者とのマッチングを生むシステム>

域外の企業や団体、人材に向けて
新たなチャレンジができる町の魅力やコンセプトを発信

例えば…



これらに共感し、価値を見出してくれる都市部の企業、団体やその人材等と本別町の事業者をマッチングさせ、事業を創出できるように推進していく



- ・技術を持つ企業
- ・経験を持つ人材
- ・クリエイティブな人材 (コンサル、デザイナー、設計者、プログラマー等)

**民間主導で地域課題を解決
できる新たな産業を創出**

- ・本別町を良くしたい思いを持つ企業や人材
- ・ビジネスの種を育てるために新たなプレイヤーと出会いたい企業や人材

域外や都市部事業者、人材と本別町内事業者との
マッチングについて

これからの本別町は、地域課題解決のために様々な人材や企業、専門家の手助けが必要となります。

本別町の様々な資源や人材や場所といったフィールドを用いて、域内外の事業者が協力し新規産業を創出することで、地域内に新たな雇用や新たな収入が生まれ、地域を活性化させる手助けとなっていきます。

それらを推進していくための新規事業創出を目的としたマッチングを意図的に生むシステムとして、町内にマッチング機能を持ったサテライトオフィスを創設したいと考えています。また、クリエイティブな人材を呼び込んでいくことで、町の発信力を向上させていくことも狙いです。

こうした動きを活発化させていくことで、本別町内だけでは解決できなかったり、スタートできなかった様々な事業を実現し、町内の活性化につながっていきます。